



福島放技ニュース

THE NEWS OF THE FUKUSHIMA ASSOCIATION OF RADIOLOGICAL TECHNOLOGISTS

2005

6月20日号

91
VOL.

発行所 社団法人 福島県放射線技師会

〒960-8003 福島市森合字蒲原16-7 TEL/FAX 024(559)1043

ホームページアドレス <http://www.yo.rim.or.jp/fart> メールアドレス fart@yo.rim.or.jp

技師格制度を問う



副会長 斎藤 康雄

新年度、新たな気持ちでスタートはしてみたものの、日本放射線技師会にどう着いていけば良いのか戸惑っているのが現状ではないだろうか。信頼関係を信条としている職業のはずなのに、このような状態で国民の負託に十分に答えられるとは思えない。今後どうなっていくのかは、私に分かるはずもないが、言えることは、自分達のことは自分達の責任で変えなければならないことである。自身で取り組まなければ誰も助けてはくれないと言うことだ。

日本放射線技師会から継続教育基本規定なるものが出されていることは、皆さんも承知の通りである。その中でいろいろなことが規定されていて、その一つとして放射線技師格を定め全ての継続教育の基本とすることが決められている。継続した目標としての設定として技師格があると説明している。その基礎をなすものがアドバンス放射線技師である。目的は、

1. 養成機関における教育と実際の臨床業務とのギャップを埋める。
2. 真の医療人としての最低限必要な知識、技術を身に付ける。
3. 医療に質ならびに安全を確保する。
4. 信頼される診療放射線技師の職の確立。

である。本来、生涯教育や認定制度は、内部の体制が変わったからと言って早計に変わるものであってはならないし、むしろ徐々に確立されていくものであると考える。意見の相違はあるにせよ、生涯学習システムのような一貫した教育制度が必要なことを否定する会員はいないと思う。一時的な思いつきで始められ、一過性の苦勞を強いられ結果が出ないような制度でないのなら、我々は受け入れるに値すると考える。だが、性急に制度を導入しアドバンス格を持たなければ何にもトライできなくなる様な、向上心にまで制限を付けた制度は必要なのだろうか。いろいろ取り組んだ結果としてそうなることで良いのではないだろうか。夫々が置かれている境遇が違う中で、既存の全会員が満足できる制度等有得ないが、一人でも多くの会員が納得できる制度の導入が会の発展に寄与すると考える。

今やっておかなければ後で不利益が生じるかも知れない先の見えない不安は、誰もが持っている。これは日本放射線技師会の執行部にしても同じことだろう。過去の経験と社会の要求に併せて今何をやらなければならないのか、その方向性を示すこと。リーダーシップとはそう言うものなのではないだろうか。我々はそれを指標に活動し行動しているのであるが、足枷のような技師格制度がそれに値するとはどうしても思えないのである。一部の役員の不祥事が不審を招き、対外的な働きかけにも影響が出ているとするならば、そしてそれが会員のやる気を削いでいるならば、むしろ内部の浄化が技師格制度を上回る対策であるような気がしてならない。外に対しての強い政治的な力を持っているとは思えない日本放射線技師会は、会員の頑張りに期待するしかない筈なのに、会員を裏切るような行為が会員のやる気を削ぎ、会の将来性と会員としての意義と魅力をなくしかけていることに対処しないで、会の将来を語るにはちゃんちゃらおかしいと言われても仕方がない。

制度的な問題はあるにせよ、純粹に会の発展と自身の向上を考えて前向きに取り組んでいる多くの会員がいる。会員の向上心こそが技師会発展の原動力である。福島県放射線技師会としては、できることから取り組み継続していくことを当面の課題としたい。

平成17年度 福島県放射線技師会総会開催される

第58回の(社)福島県放射線技師会総会が5月14、15日に飯坂温泉あづま荘で開催された。

14時から始まった専門分科会・各種研究会の活動内容報告では、鈴木学術担当理事の司会で、各代表者がこの1年間に開いた研究会や活動の成果について報告がなされた。

15時20分から特別講演が行われ、「自然環境の変化と動植物への影響」と題して、福島県環境アドバイザーでもある、福島県自然保護協会会長星一彰先生から貴重な講演があった。人間を含めた自然界の生態系の大切さや、バランスの崩れによって起こる様々な問題、特に緑豊かな福島県に住んでいればこそ知らなければならない問題が多くあった。

総会は休憩の後、16時30分から始まり、冒頭、高橋勝郎氏を名誉会員に推薦する旨の提案がなされ満場一致で了承された。

永年勤続20年及びシネ研学術奨励賞の表彰の後、佐藤勝美君(県北)と山田隆弘君(会津)を議長に選出し議事に入った。資格審査委員の会員総数613名中委任状を含む出席者は468名との報告で、本会の有効宣言が出された。

議事は淡々と進行したが、日本放射線技師会の問題と本県の対応に關しての質疑が注目を集めていた。

また、今総会は役員改選も行われ、立候補者の届出が定数通りなことから、そのまま承認され、新旧役員の挨拶で総会が終了した。

その後の懇親会は、各地の銘酒が舞台に並べられ、酒好

きには最高の演出だった。特に今回は賛助会員との和気あいあいとした交流が目立ち、場所が変わっても遅くまで親睦は続いていた。

担当の県北支部の支部長はじめ役員の皆様、本当にご苦労様でした。

17・18年度(社)福島県放射線技師会役員

会 長	片倉 俊彦	福島県立医大附属病院
副 会 長	齋藤 康雄	(財)坪井病院
副 会 長	鈴木 憲二	福島県立医大附属病院
監 事	馬場 栄二	(財)山鹿クリニック
監 事	高橋 宏和	高橋会計事務所
理 事	齋藤 重夫	(財)福島県保健衛生協会
理 事	本田 規	市立総合警城共立病院
理 事	吉田 豊	厚生連白河厚生総合病院
理 事	秦 昭吉	県立会津総合病院
理 事	今野英麻呂	福島赤十字病院
理 事	森口 節男	公立藤田病院
理 事	白川 義廣	(財)竹田総合病院
理 事	富塚 光夫	(財)太田総合西ノ内病院
理 事	飯野 克郎	(財)南東北総合病院
理 事	長川 正良	(医)渡辺病院
理 事	八巻 昭一	市立総合警城共立病院
常務理事	遊佐 烈	福島県立医大附属病院
常務理事	新里 昌一	(財)太田総合西ノ内病院
常務理事	持館 博志	公立相馬総合病院
事務局長	伊藤 陸郎	

17年春の叙勲
高橋 勝郎元副会長受章

平成17年春の叙勲が去る4月29日発表され、本会副会長・福島県南放射線技師会会長を歴任された元寿泉堂総合病院診療技術部主幹高橋勝郎氏に瑞宝単光章が贈られた。

氏は、20年以上に亘り県南技師会及び本会理事を勤められ、社団法人設立に関わった功績や、寿泉堂病院診療部並びに事務部職員として郡山地区救急医療協議会の充実発展に貢献された功績が認められたものである。

また、受章を記念して本会に多額のご寄付を頂き、総会席上満場一致で名誉会員に推薦された。

県知事表彰は村松氏に

去る5月3日発表された平成17年度知事表彰では、元本会理事兼県南支部長を勤められた元太田総合病院熱海病院技師長村松影治氏に保健衛生功勞表彰が授与された。



山村稔氏瑞宝双光章 受章祝賀会開催

2月27日(日)郡山ビューホテルアネックスにおいて福島県放射線技師会、県南支部、坪井病院放射線科が発起人となり80名の参加者の下、山村稔氏の瑞宝双光章の受章祝賀会が盛大に開催されました。

吉田豊県南支部長の発起人代表挨拶に始まり伊藤陸郎事務局長より技師会での功績や撮影補助具などの数々の特許など幅広い活躍が披露されました。

片倉会長、(財)坪井病院理事長坪井先生、同院長岩波先生からの祝辞が続き山村氏の事務長も兼ねた坪井診療所時代のエピソードから胸部や胃透視での深い見識など高い評価を皆様からいただきました。

各支部からも多数参加をいただき祝宴は馬場副会長の正調万歳三唱で盛会裏に終えることが出来ました。



「県学術大会の開催ならびに演題募集のお知らせ」

開催日 平成17年11月13日(日)

会場 県立福島医科大学 大講堂

演題募集要項

<演題申込>

700字以内の抄録(演題名、施設名、発表者名《共同研究者を含む》、目的、方法、結果《図表不可》)を下記大会事務局へメール(1演題1メール)で申し込んでください。

<申込期間>

平成17年6月1日から9月3日

<発表形式>

口述発表、1題7分、PC発表のみ、詳細な注意点は演題申込者に後日連絡します。

<その他>

予稿集は10月下旬には発送予定

大会事務局

〒963-8558 郡山市2-5-20

太田西ノ内病院放射線部内

実行委員長 新里昌一

tel 024(925)1188 (内線)31265

e-mail radio-tec@ohta-hp.or.jp

支部 便り

県南支部

平成17年度 県南支部総会

4月27日(水)、ビッグアイ第一会議室にて講演並びに総会が開催された。講演は、CTビギナーズセミナー『CTの被曝線量測定』として、太田西ノ内病院 新里昌一氏、大原亮平氏、総合南東北病院 大越裕志氏らにより実際の測定手順の解説等がされた。

引き続き総会が開催され、平成16年度の事業及び決算報告、平成17年度の事業計画、予算説明があり、満場一致にて承認された。また、役員改選の年に当たり、新役員が選任された。

■総会 出席者30名 委任状130名

議長 竹村 聖毅 (白河厚生病院)

書記 下山田 明 (坪井病院)

議事録署名人 三村 智道 (坪井病院)

第2号議案の決算報告の中で16年度会費未納者が27名と少なくなく、年度を繰越して納入されても支部にこの分は助成されない事が説明され各職場においてあらためて期

限内の納入をするよう訴えた。また、県技師会のみでの在籍は初年度一年のみとの説明があった。

○新役員

支部長	吉田 豊	(白河厚生総合病院)
副支部長	富塚 光夫	(太田西ノ内病院)
"	飯野 克郎	(総合南東北病院)
監事	斎藤 康雄	(坪井病院)
"	新里 昌一	(太田西ノ内病院)
財務	渡辺 和夫	(太田熱海病院)
庶務	熊田 真幸	(坪井病院)
学術部	佐藤 政春	(星総合病院)
"	小島 正徳	(総合南東北病院)
"	幕田 節男	(端厚生病院)
"	佐久間守夫	(星総合病院)
"	福田 和也	(公立岩瀬病院)
厚生部	中里 史郎	(桑野協立病院)
"	車田 清春	(公立岩瀬病院)
"	北島 潔	(白河厚生病院)
"	菅野 修一	(田村市立都路診療所)
"	山口 大	(寿泉堂総合病院)

会 津 支 部

平成17年度 会津支部総会

「支部総会並びに研究会が、4月23日(土)午後5時よりホテルニューバレスにおいて行われました。

施設紹介は坂下厚生総合病院の菊地孝典君が行った。研究発表は「マンモトームの使用経験」を会津中央の高橋香保里君、「当院のフィルムレスの軌跡」を県立宮下の平塚幸裕君、「乳房撮影におけるスクリーンとフィルムの密着性」を竹田総合の田村有子君が行った。最後に会津乳房撮影研究会が「市乳癌検診についての報告」を行った。

総会の議案は全て承認され、事業計画も例年ど通りに実施することになり、新役員は下記の方々に決まった。

支 部 長：秦 昭吉 (県立会津)

副支部長：山田隆弘 (会津中央)

副支部長：白川義廣 (竹田総合)

会 計：星 剛志 (竹田総合)

事 務 局：松枝直宏 (竹田総合)

画像研究会開催される

さる、2月25日(金)午後6時15分より、第58回会津画像研究会が竹田総合病院2階講堂にて開催されました。

講演では、25名の参加のもと、第一製薬(株)仙台支店造影剤領域担当の成谷光造氏による「オムニパーク製剤の話題」と富士フィルムメディカル東北支店の佐藤雅勝氏による「FCRの新規画像処理」が行われました。夫々に活発な意見交換や質問が飛び交っていました。つづいて行われた「新年会」には30名が参加し、立食形式で和やかに行われました。



県 北 支 部

第3回理事会開催

平成16年度第3回県北理事会が去る平成17年3月9日(水)午後6時30分より保険衛生協会4F会議室で行われた。議題は①平成16年度事業報告②県北支部総会について③県北支部役員改選について④県総会運営並びに各委員選出について⑤県総会準備について⑥その他について話合

いがもたれた。

今回の理事会において鈴木副支部長、(医大)、遊佐、渡辺理事(医大)丹治理事(北福島)より17年度の役員を辞退したいとの申し入れがあった。また、予てからの懸案であった県北支部の「若人の懇親会」をなるべく早急に開催することが決定された。(佐藤)

浜 通 り 支 部

浜通り支部総会及び学術発表会開催される

平成17年4月16日(土)午後1時から原町市のロイヤルホテル丸屋において、福島県放射線技師会浜通り支部総会および学術発表会が開催されました。定例の学術発表会は、原町市立病院(佐川保良)・いわき市立総合警城共立病院(桑村啓太)・呉羽総合病院(鈴木規芳、渡辺俊介)による4演題が発表されました。また、本総会において浜通り執行部の改選が行なわれ、浜通り技師会の支部長を務められた公立相馬病院 持館博志技師長が退任され新執行部体制に移行しました。特別講演では東北大学加齢医学研究所機能画像医学研究分野教授 福田寛教授の「PETの現状と将来」と題する講義を聴講しました。同分野では権威ともいえる同先生のPETの評価と説明は大変解りやすく興味深いものでした。会終了後には懇親会が開かれ、新支部長であるいわき市立総合警城共立病院 本田技師長の挨拶の後、楽しく浜通り技師会の今後を語り合いました。

浜通り支部 平成17・18年度新役員

支 部 長	本 田 規	市立総合警城共立病院
副支部長	長 川 正良	(医) 渡辺病院
副支部長	八 巻 昭一	市立総合警城共立病院
監 事	古 川 義一	かしま病院
監 事	堀 江 常満	雲雀ヶ丘病院
理 事	栗 田 祐治	公立相馬総合病院
理 事	渡 辺 一啓	福島労災病院
理 事	船 生 晴雄	松村総合病院
理 事	寺 島 健治	普波病院
理 事	大 森 修	呉羽総合病院
理 事	嶋 田 峻二	原町市立病院
理 事	村 上 薫	小野田病院
会 計	草 野 義直	市立総合警城共立病院

編 集 後 記

今回はニュース4月号の発行が出来ず、ニュース6月号になってしまったこと、お詫びします。県技師会も役員改選を済ませ新体制で活動が始まっています。編集委員会も新メンバーでのスタートです、どうぞよろしく願います。(八巻)